

2 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和4年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名： 病院事業庁

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立志摩病院(志摩市阿児町鵜方1257)
指定管理者の名称等	公益社団法人地域医療振興協会 理事長 吉新通康（東京都千代田区平河町 2-6-3）
指定の期間	令和4年4月1日～令和14年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・診療等に関する業務 ・利用に係る料金の收受等に関する業務 ・手数料の徴収に関する業務 ・施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務 ・その他志摩病院の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・外科系救急の受入体制や産婦人科の外来診療の拡充など、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。 ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に関して関係機関と連携しながら病床の確保や入院患者の受入れ、地元住民に対するワクチン接種などに対応した。
2 施設の利用状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がある中、1日平均入院患者数を除き前年度の実績を上回った。入院患者数の減については、同感染症患者用の病床及び人員確保のために1つの病棟を閉鎖した期間があったことなど、やむを得ないものと考えられる。
3 成果目標及びその実績	B	B	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率は成果目標を達成したが、その他の指標は新型コロナウイルス感染症による影響等により、成果目標を下回っている。

※「評価の項目」の県の評価： 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>令和4年度においても、幅広い疾患に対応できるよう診療体制を維持し、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院診療では、一般病床、地域包括ケア病床及び精神病床を運用することにより、地域の医療ニーズに的確に対応したことに加え、県からの要請に応え新型コロナウイルス感染症患者の受入れも積極的に行った。一方で、同感染症の院内感染が複数回発生し、診療制限せざるを得ない状況も発生したことから、入院患者数は減少した。 ・外来診療では、産婦人科医師を確保し外来診療の拡充を行うなど、全体として昨年度よりも多くの患者を受け入れた。 ・救急診療では、内科系救急における24時間365日体制の患者受入れを継続し、外科系救急の受入体制を拡充するなど、昨年度よりも多くの救急患者を受け入れた。 ・成果目標については、同感染症の影響等もあり、経常収支比率を除く各指標で目標値の達成には至らなかった。今後、同感染症と一般診療との両立をより推進しながら、指定管理者による的確かつ十分な要因の分析、対策の実施が必要である。
--------	---

< 指定管理者の評価・報告書(令和4年度分) >

指定管理者の名称: 公益社団法人地域医療振興協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県立志摩病院の管理運営事業の実施に関する業務

- ・令和4年度の病院運営は、医師 30 名(常勤医 24 名、初期研修医6名)の診療体制でスタートし、業務の効率化を図りながら、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。
- ・入院診療では、2次救急病院として救急患者や紹介患者を受け入れるとともに、回復期機能である地域包括ケア病棟(3・6病棟)を運用した。
- ・新型コロナウイルス感染症については、県と連携しながら、緊急的な患者対応期には最大 26 病床を確保し、伊勢志摩地域外からの入院患者も受け入れた。
- ・外来診療では、産婦人科の常勤医師を採用できたことから、週3日の診療を7月から週5日に拡充した。そのほか、一部診療科では昨年度に引き続き同感染症拡大の影響による外来患者の受診控えが見受けられた。
- ・救急医療では、内科系は平成 28 年5月から 24 時間 365 日患者の受入れを継続して実施している。さらに、外科医師の増員に伴い、令和4年6月から火・水曜の準夜間(17 時～22 時 30 分)の受入れを新たに開始した。
- ・健診事業では、地域内の企業等に対する広報活動を積極的に行った結果、健診件数が昨年度より増加した。
- ・地域医療支援病院(平成 29 年 10 月承認)として、1次医療を担う地域医療機関との患者の紹介・逆紹介の推進、入院加療や救急患者の受入れ、専門外来の診療、医療機器の共同利用、地域の医療関係職員の研修などを実施した。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・建物(一般病棟、管理・検査棟、精神病棟)は、築後 30 年以上が経過し、設備も老朽化が進んでいるため、経年劣化による修繕対応が増えている。令和4年度は、病院事業庁が病棟屋上防水・外壁改修工事等を実施し、病院側で臨床化学自動分析装置等の修繕等を実施した。
- ・医療機器については、病院事業庁により計画的に更新されているが、耐用年数を超えている機器も多く、適切な修繕により長寿命化に努めている。
- ・診療材料、医療消耗品については、SPD(物品管理)委員会において定期的に使用状況を把握しながら定数を管理するとともに、薬品については積極的に後発医薬品へ切り替えるなど経費削減に努めた。

③ 施策への配慮に関する業務

- ・志摩市からの要請により、昨年度に引き続き高齢者への新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に対応したほか、令和4年度は新たに乳幼児へのワクチン接種にも対応した。
- ・県からの同感染症にかかる看護師の派遣要請に基づき、臨時応急処置施設への派遣に対応した。
- ・志摩市間崎島への巡回診療を月2回(内科系・外科系)実施し、島民に受診の機会を提供した。また、へき地医療支援機構(事務局)として代診医の派遣調整を実施した。
- ・オンライン資格認証システムを令和3年度に導入し、マイナンバーカードを健康保険証として利用できる環境を整えている。
- ・「女性が働きやすい医療機関(平成 29 年3月県認証、令和2年3月再認証、令和5年3月再認証)」として、女性の就労環境等の改善に努めた。
- ・省エネルギー対策(電灯のLED化等)に取り組んだ。
- ・思いやり駐車区画を正面玄関付近と立体駐車場に設け、適正な利用について啓発を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・関係法令に基づいて規程を整備、個人情報管理責任者を配置し適切な管理を実施した。

⑤ その他の業務

- ・地域連携室では、地域の医師会、介護・福祉施設、関係団体等と顔の見える関係を築くとともに、地域の中核病院として、地域の医療職を中心とした研修会等を実施してきた。昨年度に続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、リモートによる開催とせざるを得ない状況となった。

(2) 施設の利用状況

	R 3	R 4
1日平均入院患者数	167.9人	166.2人
1日平均外来患者数	254.8人	258.4人
1か月平均救急患者数	277.8人	300.9人

2 利用料金の収入の実績

	R 3	R 4
入院収益	2,185,040千円	2,220,510千円
外来収益	811,986千円	837,040千円
その他医業収益	81,478千円	82,586千円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	594,143,000	590,447,000	事業費	4,405,485,411	4,491,753,333
利用料金収入	3,078,503,830	3,140,135,088	管理費	61,834,000	63,051,000
その他の収入	1,765,768,300	1,438,038,546	その他の支出	7,320,873	6,073,453
合計 (a)	5,438,415,130	5,168,620,634	合計 (b)	4,474,640,284	4,560,877,786
収支差額 (a) - (b)	963,774,846	607,742,848			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	1日平均入院患者数 202人/日 1日平均外来患者数 302人/日 1か月平均救急患者数 492人/月 経常収支比率 100% 患者満足度 95%
成果目標に対する実績	1日平均入院患者数 166.2人/日 (R3実績:167.9人/日) 1日平均外来患者数 258.4人/日 (R3実績:254.8人/日) 1か月平均救急患者数 300.9人/月 (R3実績:277.8人/月) 経常収支比率 113.3% (R3実績:121.5%) 患者満足度 92.4% (R3実績:65.5%) ※令和3年度まで「利用者満足度」
今後の取組方針	志摩地域の中核病院として、地域の方々に安全かつ良質な医療が提供できるよう、引き続き諸課題の改善に努めるとともに、当院が保有する医療資源を最大限に活用しながら診療体制の構築に努めていく。 また、内科系救急の24時間365日の患者受入れを継続して行うとともに、今年度から外科系救急の準夜間の受入れを平日すべてに拡充できたことから、当該体制を維持できるよう努める。 引き続き指導医、専門医の確保に努めるとともに、総合診療医と専門医との連携による医療の充実に取り組んでいく。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外科系救急の受入体制拡充(平日すべての準夜間における受入体制の整備)や常勤医師の確保による外来診療の拡充(産婦人科医の確保による週5日の外来診療実施)など、診療機能の回復・充実及び地域医療への貢献に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症への対応については、県と連携して入院患者を受け入れるとともに、ワクチン接種等に取り組んだ。 ・施設及び設備の維持管理及び修繕を適切に実施するとともに、利用者の利便性向上に取り組んだ。
2 施設の利用状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1日平均入院患者数を除き、前年度実績を上回っている。1日平均入院患者数の減少は、新型コロナウイルス感染症患者対応病床の確保にあたり、病棟を1つ閉鎖するほか、多数の感染患者を受け入れたことで院内感染が複数回発生してしまうなど、当初想定されていない対応が必要となったことによるものである。 ・地域包括ケア病棟の運用(長期間入院加療ができる病床として住民の医療ニーズに対応)や地域医療支援病院としての活動(病診連携の推進)など、入院・外来患者の確保に向けた取組を実施している。
3 成果目標及びその実績	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による入院患者数の減少等により、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数、1か月平均救急患者数、患者満足度の成果目標は達成できなかった。なお、成果目標は同感染症による影響を元々見込んでいないことから、目標の未達については帰責性のないものと考えている。 ・経常収支比率は、同感染症にかかる補助金等の受入れがあったことから目標を達成できた。

※評価の項目「1」の評価 : 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」、「3」の評価 : 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>令和4年度も、業務の効率化を図りながら診療機能の維持・充実を図り、地域医療への貢献に努めた。</p> <p>診療体制については、医師の確保に努めた結果、外科・整形外科・産婦人科等でそれぞれ1名常勤医師を採用することで、体制を拡充できた。また、新型コロナウイルス感染症対策として、県と連携しながら病床の確保や入院調整を行うなど、昨年度に引き続き難しい病床管理・運用に的確に対応した。</p> <p>入院医療では、急性期、地域包括ケア及び精神病床を運用することにより、地域の医療ニーズに的確に対応し、同感染症患者も含め60,648人の患者を受け入れた。</p> <p>外来診療では、産婦人科において常勤医師を採用し、診療体制の充実を行った。</p> <p>救急診療では、内科系救急において24時間365日体制での患者受入れを継続し、外科系救急においては準夜間の受入れを平日すべてに拡充した。</p> <p>収支状況については、入院患者数が減少する一方、診療単価の増額により、前年度より増収となった。また、健診事業や通所リハビリテーション事業の収益は増加した。</p> <p>施設・設備の老朽化等への対応や高額な医療機器の更新については、県と連携を密にし、計画的な整備に努めた。</p>
--------	---

